

# 日本甜菜製糖株式会社

2026年5月25日

2026年3月期

通期

## 決算説明会

日本甜菜製糖株式会社 [証券コード：2108]

# エグゼクティブサマリー

## 1. 【2026年3月期（当期）の業績】

- ・ 砂糖事業の下期の販売価格下落の影響により営業利益は減少。
- ・ 政策保有株式売却により当期純利益は増加。
- ・ 1株当たり配当金を普通配当80円に特別配当80円をプラスし、160円に増額予定。

## 2. 【2027年3月期（次期）の業績予想】

- ・ 砂糖事業の回復を見込み、営業利益は増加。
- ・ 政策保有株式の縮減は継続するが、具体的な売却計画は未定。

## 3. 【資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応】

### 2028年3月期（最終年度）の中期経営計画の目標達成に向けて

- ・ ROE 5%目標の達成。（中長期的にはROE 8%以上を目指す。）
- ・ 政策保有株式の縮減は継続。
- ・ 資本効率改善に向けた自己資本コントロールを目的とし、株主還元のさらなる強化を行うため、「1株当たり配当金80円以上」から「DOE 4.0%を目安」へ配当方針を変更。

## 目次

---

1. 決算概要	P 4
2. 中期経営計画の進捗状況	P13
3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応	P26
4. 参考資料 1 (事業紹介)	P34
5. 参考資料 2 (業績関連数値)	P42

# 1

## 決算概要

---

# 決算概要

## 2026年3月期 対前期比増収増益

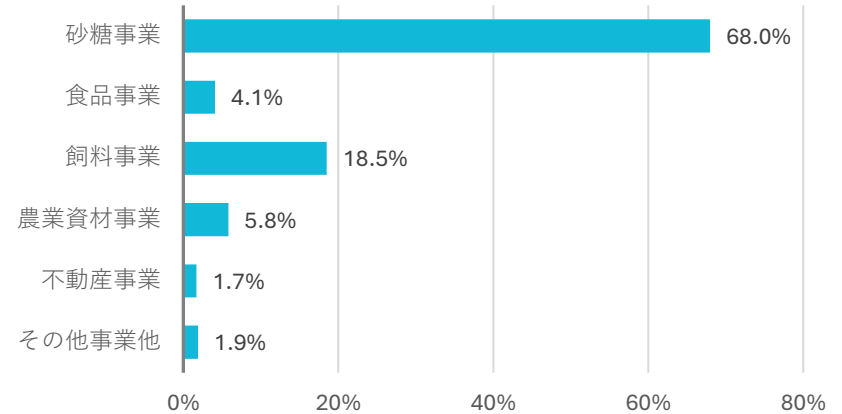
- ・ 砂糖事業の販売価格下落による影響が大きく、営業利益減少。
- ・ 政策保有株式の売却を進めたことにより当期純利益増加。

単位：百万円

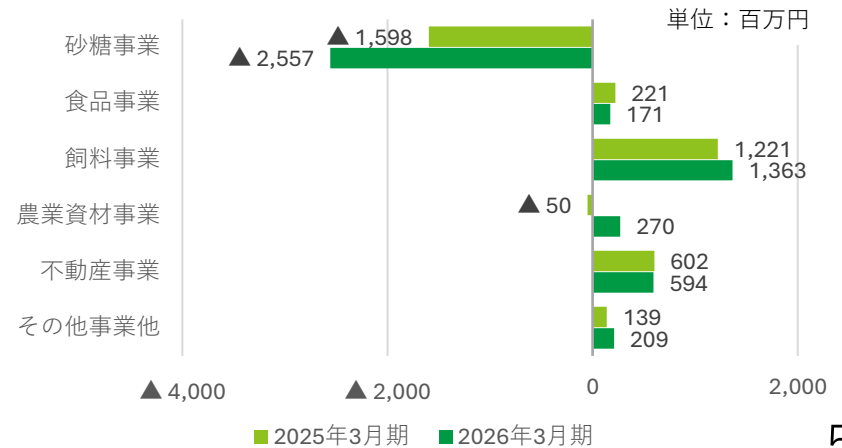
	2025年3月期		2026年3月期	
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
売上高	64,796	68,696	3,900	6.0%
営業利益	535	52	▲ 483	▲ 90.2%
経常利益	1,124	758	▲ 365	▲ 32.5%
特別損益	2,827	6,301	3,473	122.9%
当期純利益	2,703	5,032	2,328	86.1%

	2025年3月期		2026年3月期	
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
売上高	64,796	68,696	3,900	6.0%
砂糖事業	42,897	46,694	3,797	8.9%
食品事業	2,700	2,801	100	3.7%
飼料事業	12,858	12,744	▲ 113	▲ 0.9%
農業資材事業	3,928	3,987	59	1.5%
不動産事業	1,233	1,166	▲ 66	▲ 5.4%
その他事業他	1,177	1,300	123	10.4%
営業利益	535	52	▲ 483	▲ 90.2%
砂糖事業	▲ 1,598	▲ 2,557	▲ 958	-
食品事業	221	171	▲ 50	▲ 22.6%
飼料事業	1,221	1,363	142	11.7%
農業資材事業	▲ 50	270	321	-
不動産事業	602	594	▲ 7	▲ 1.3%
その他事業他	139	209	70	50.2%

2026年3月期 事業別 売上高構成比



事業別 営業利益額 (2025年3月期、2026年3月期)



# 砂糖事業の業績推移

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	増減
売上高	42,897	46,694	3,797
営業利益	▲1,598	▲2,557	▲958

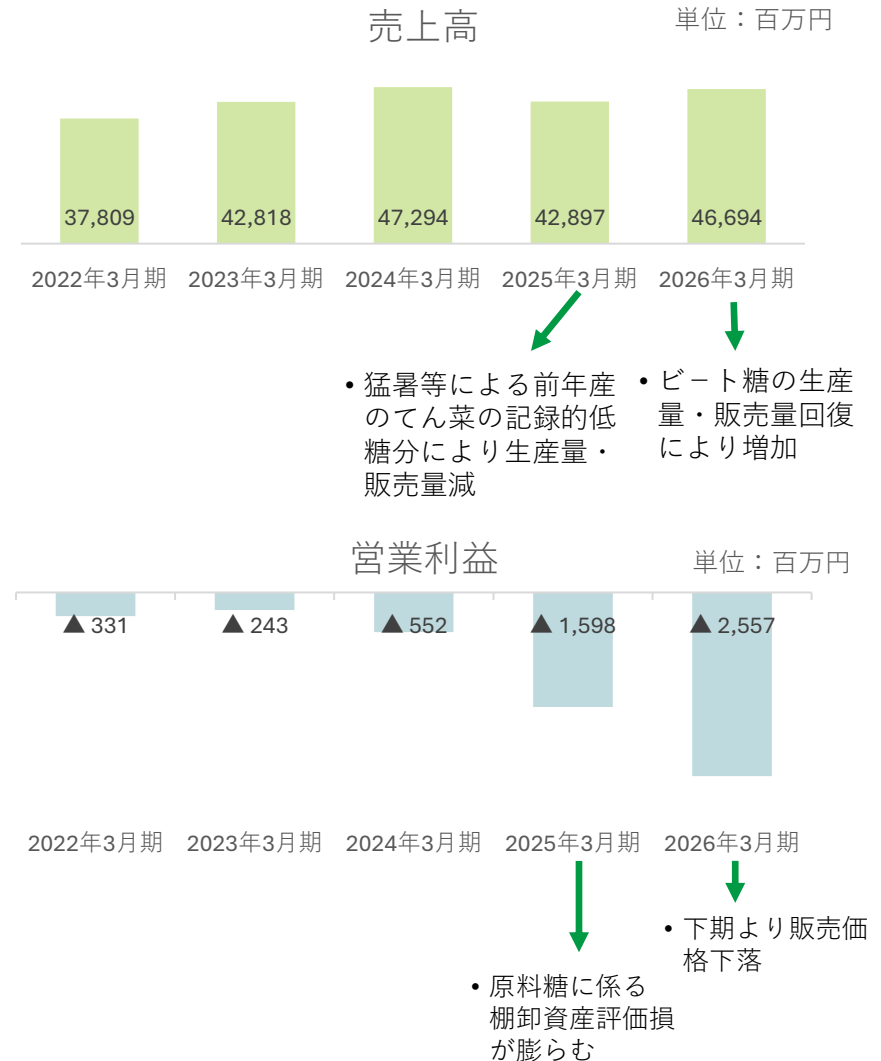
## 【事業内容】 ビート糖、精製糖

### 【増収減益】

売上高対前期比8.9%増、営業損失は増加

- ✓ ビート糖の生産量は回復。
- ✓ 海外粗糖相場の下落の影響を受け、下期より販売価格が下落。

※ 売上高は、てん菜の豊凶、海外砂糖の主要生産国であるブラジル、インド等の作柄等に影響される海外粗糖相場、国内砂糖消費量等の外部要因に影響される。



# 食品事業の業績推移

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	増減
売上高	2,700	2,801	100
営業利益	221	171	▲50

## 【事業内容】 イースト、オリゴ糖等食品素材

### 【増収減益】

売上高対前期比3.7%増、営業利益22.6%減

#### ✓ イースト

- ・燃料費等の製造原価や経費の増加の中、販売単価増により売上高は微増となったものの、減益。



【とから野酵母】  
国産ドライイースト

#### ✓ オリゴ糖等食品素材

- ・販売数量微減により減収。
- ・製造コスト削減に努め、利益は前年並み。



【ラフィノース100】

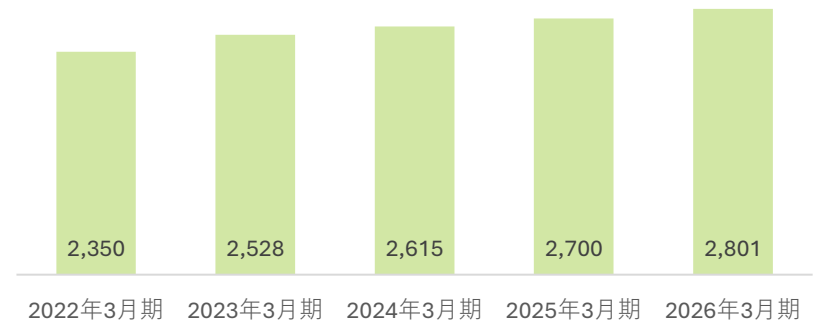
※てん菜にわずかに含まれる天然のオリゴ糖「ラフィノース」を食べやすく顆粒状にした商品



【北海道どさんこオリゴ】

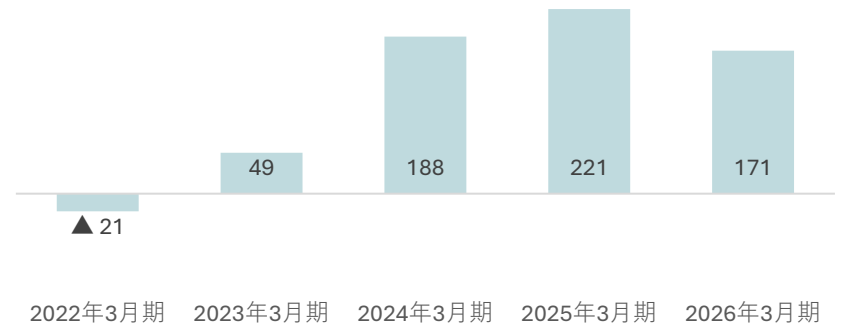
## 売上高

単位：百万円



## 営業利益

単位：百万円



# 飼料事業の業績推移

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	増減
売上高	12,858	12,744	▲113
営業利益	1,221	1,363	142

## 【事業内容】配合飼料、ビートパルプ

### 【減収増益】

売上高対前期比0.9%減、営業利益11.7%増

- ✓ 配合飼料
  - 乳牛用飼料の前年の値下げの影響により販売単価は下落したものの販売数量の増加により売上高微増。
  - 原料価格の低下やコストの見直しにより増益。



#### 【イムノアクセル®ジェル】

対象：仔牛  
 ※初乳中の免疫グロブリンの吸収を促進するオリゴ糖を原料とした新生仔牛向けサプリメント



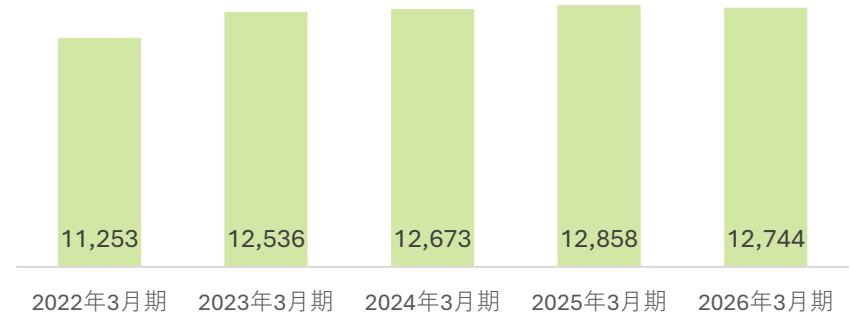
#### 【ビートフラクト】

対象：子牛、子豚、親豚  
 ※ビート糖蜜を原料とした飼料向けフラクトオリゴ糖

- ✓ ビートパルプ
  - 原料であるてん菜の収量減少により製造数量は減少。
  - 生パルプロールSの試験販売を実施。

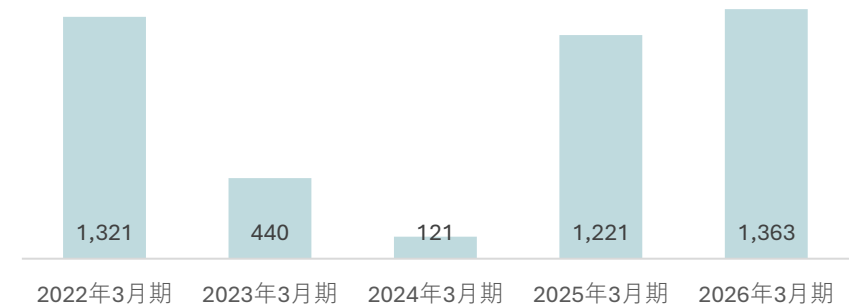
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



- 原材料価格の高騰、エネルギーコスト増

# 農業資材事業の業績推移

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	増減
売上高	3,928	3,987	59
営業利益	▲50	270	321

【事業内容】紙筒（育苗用資材）、農業用機械器具

【増収増益】

売上高対前期比1.5%増、営業利益は前年度の  
棚卸資産評価損の影響がなくなり増益

✓ 紙筒を用いたてん菜の移植栽培が近年減少傾向。



【ペーパーポット®】

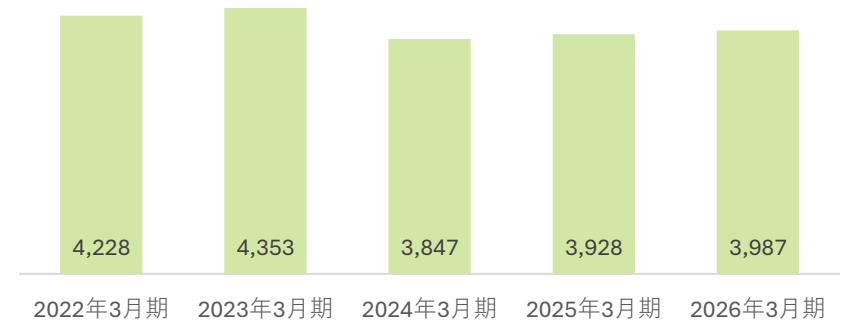
✓ てん菜で培った紙筒移植栽培技術を用い、ネギ等の野菜や林木用へも展開。海外も含め拡大を図っている。



【ひっぱりくん】

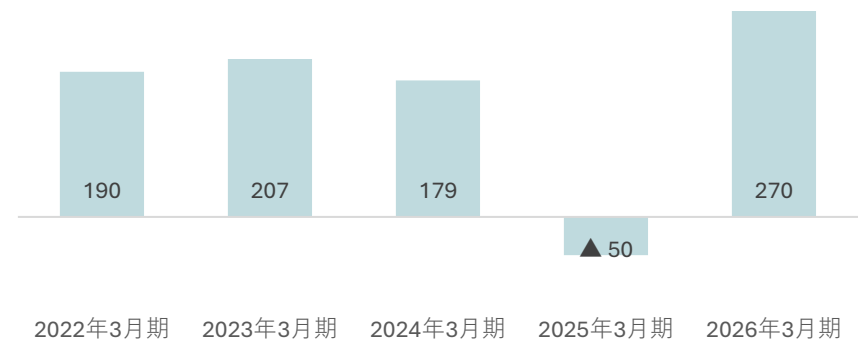
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



・棚卸資産評価損計上

# 不動産事業の業績推移

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	増減
売上高	1,233	1,166	▲66
営業利益	602	594	▲7

## 【減収減益】

売上高対前期比5.4%減、営業利益1.3%減

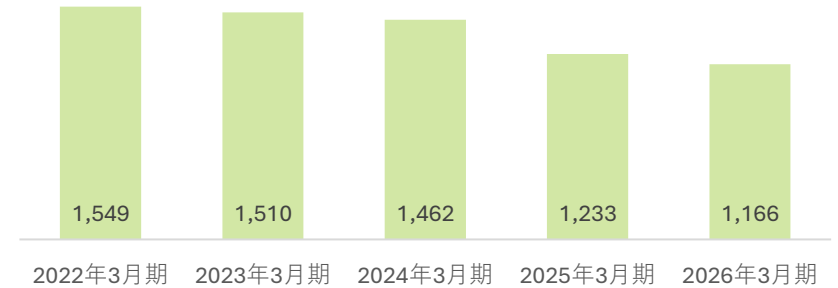
帯広市の旧製糖所跡地の一部を再開発した地区は、道東で最大級の複合商業施設となっており、地域の皆様の暮らしに貢献しております。



【北海道帯広市 複合施設】

売上高

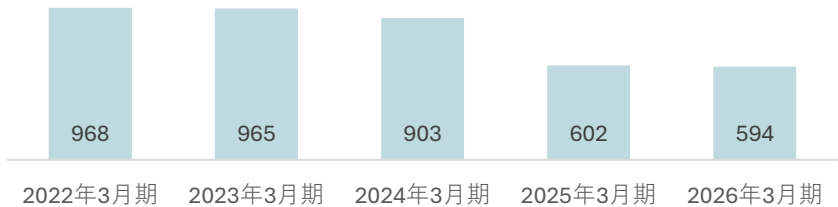
単位：百万円



- 一部賃貸物件の稼働率低下
- 本社ビル売却によるテナント収入減

営業利益

単位：百万円



## その他の事業の業績推移

単位：百万円

	2025年3月期	2026年3月期	増減
売上高	1,177	1,300	123
営業利益	185	293	108

## 【事業内容】 貨物輸送、石油類販売等

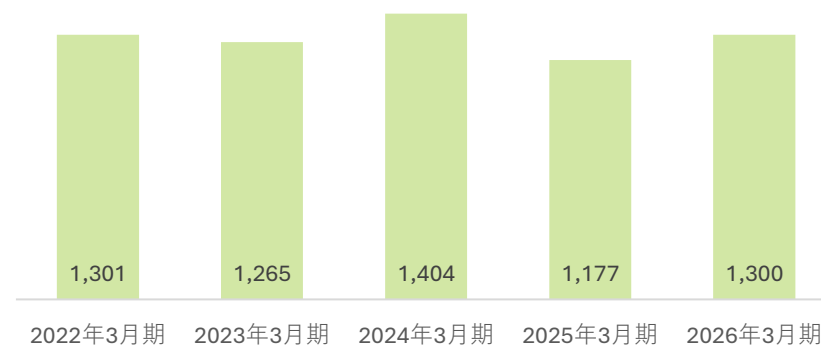
## 【増収増益】

売上高対前期比10.4%増、営業利益58.4%増

- ✓ 貨物輸送の増加により売上高、営業利益増。
- ✓ てん菜、ビート糖、配合飼料を中心に配送しているが、他の作物の配送の展開も図っている。
- ✓ 輸送コストが増加傾向にあるが、輸送効率等の改善に取り組み、コスト低減を図っている。

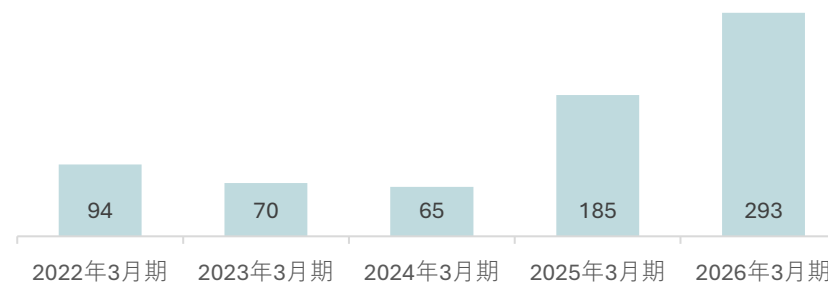
## 売上高

単位：百万円



## 営業利益

単位：百万円



↓  
 ・貨物輸送の  
 コスト削減

## 2027年3月期 業績予想

2027年3月期計画

売上高：対前年+303百万円 営業利益：対前年+1,247百万円

単位：百万円

	2026年3月期	2027年3月期		
	通期実績	通期計画	増減額	増減率
売上高	68,696	69,000	303	0.4%
営業利益	52	1,300	1,247	-
経常利益	758	1,800	1,041	137.2%
特別損益	6,301	-	▲ 6,301	-
当期純利益	5,032	1,200	▲ 3,832	▲ 76.2%

## 2027年3月期事業の状況について

- ✓ 砂糖事業の回復を見込み、営業利益は増加。
- ✓ エネルギーコスト、輸送コストは依然として高い水準が続くが、一層のコスト削減に努め、利益確保を図る。  
※中東情勢による製造コストへの影響は、不透明であるため、計画にはおりこんでいない。
- ✓ 新商品の展開や海外向けの販売を拡げていく。
- ✓ 政策保有株式の縮減は継続するが、具体的な売却計画は未定。

# 2

## 中期経営計画の進捗状況

---

畑から、食卓へ。

てん菜から広がる可能性を見だし、  
人と環境にやさしいものづくりで、  
北海道、そして日本の未来に貢献します。

日本甜菜製糖

日本甜菜製糖グループのビジョン～ありたい姿に向けて

# 「てん菜糖業」から「てん菜産業」への飛躍

てん菜産業

未来への  
挑戦

海外への  
展開

健康  
社会の  
実現

てん菜糖業



オリゴ糖製品



マイコ  
プロテイン

カギケノリ

ナノ  
セルロース

油脂



飼料



紙筒  
(育苗用資材)



砂糖



パルプ

日甜アグリー戦略



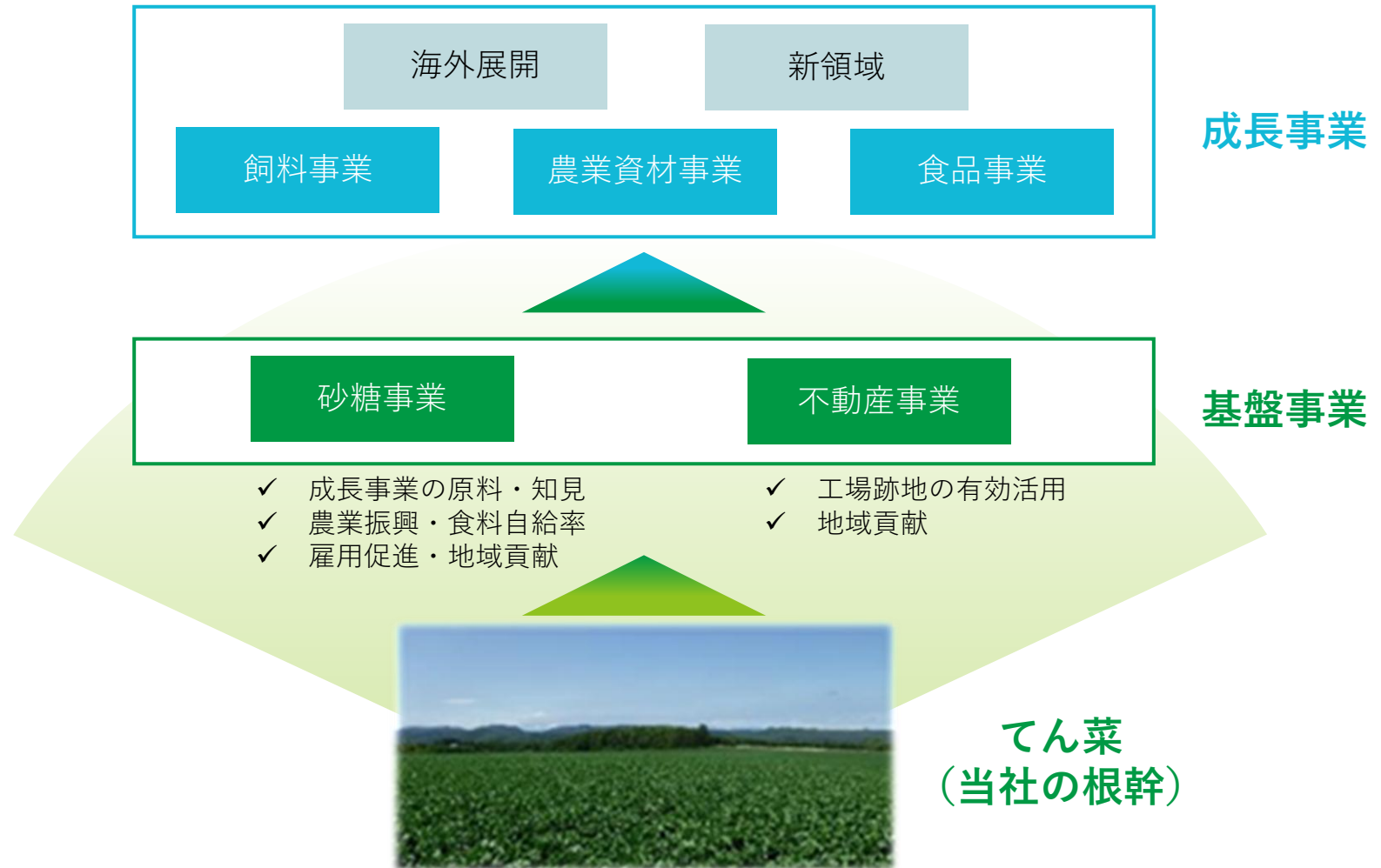
NITTEN  
AGREEN  
STRATEGY

\* クリックするとリンク先の  
ページが開きます

※ 「アグリー」 とは 「アグリカルチャー」  
と 「グリーン」 を掛け合わせた造語です。

# 当社の基盤事業と成長事業

祖業であり中核事業である砂糖事業、および不動産事業を基盤事業とし、成長事業である「飼料事業」、「農業資材事業」、「食品事業」にリソースを投下する戦略



# 中期経営計画の全体概要

## 第2次中期経営計画 基本方針

持続可能なてん菜産業の創造にチャレンジし、安全・安心で幸せな社会の実現に貢献していく

### 事業戦略

#### ▶ 成長事業の拡大加速

- 1 飼料事業
  - ✓ 独自素材DFAIIIの海外展開
  - ✓ ビートパルプの多用途展開
- 2 農業資材事業
  - ✓ 有機農業用資材の新商品開発・海外展開
  - ✓ てん菜由来の有用物質を活用した商品の拡販
- 3 食品事業
  - ✓ BtoC市場での販売強化
  - ✓ 国産ドライイーストの市場開拓
  - ✓ 新たな機能を有する製品の開発

#### ▶ 基盤事業の収益構造改善

- 4 砂糖事業
  - ✓ 省エネ・省人・省力化、販売強化
- 5 不動産事業
  - ✓ 安定的な収益確保

### 資本・財務戦略

- 1 政策保有株式の縮減
- 2 キャッシュアロケーションの策定
- 3 株主還元の拡充
- 4 適切なバランスシートコントロール

### 非財務戦略

- 1 持続可能な農業への貢献
- 2 気候変動への対応
- 3 資源の有効活用
- 4 食の安全・安心
- 5 働きやすい環境の実現
- 6 地域社会への貢献

## 第2次中期経営計画の目標値

第2次中期経営計画目標値の株主還元を更に強化するため、「DOE4.0%を目安」に変更。

	2026年3月期実績	2028年3月期目標 (2025年5月見直し後)	2028年3月期目標 (2026年5月公表)
営業利益	52百万円	<b>3,000百万円</b>	変更なし
ROE	6.7%	<b>5%以上</b>	変更なし
株主還元 (1株あたり配当金)	160円	<b>80円以上</b>	<b>DOE4.0% を目安</b>

# 中長期の取組状況①（成長事業）

## 飼料事業

- 方針
- ✓ 新規市場開拓（海外輸出）/新商品開発
- 施策内容
- ✓ ビートパルプの多用途販売
  - ✓ メタン抑制技術の開発
  - ✓ 当社独自素材の飼料添加物商品の輸出
  - ✓ 予防だけでなく、病後の回復にも寄与する健康飼料商品の開発

- 取組状況
- ✓ **生パルプロールSの開発、販売**
    - てん菜を裁断・糖分を抽出した後の繊維質を乾燥させず圧縮しながらロール状にした「生パルプロールS」を開発
    - 乾燥工程廃止によりCO<sub>2</sub>排出量を削減、牛の嗜好性もよい
    - 土別製糖所で製造
    - 2026年3月期に試験販売を実施
    - 2027年3月期より本格販売開始予定
  - ✓ **海外展開**
    - 子牛の免疫力増強サプリメント「イムノアクセル」をタイとオーストラリアにて販売開始



圧縮前の繊維質（ビートパルプ）



ロール状にした製品  
「生パルプロールS」

## 中長期の取組状況②（成長事業）

### 農業資材事業

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新規市場開拓（海外輸出等）/新商品開発（主に海外向け）</li> </ul>
施策内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 環境配慮型原紙を使用した紙筒(紙製集合鉢)開発と有機認証取得</li> <li>✓ てん菜由来の有用物質の活用と拡販</li> <li>✓ 海外展開</li> <li>✓ 紙筒をてん菜以外の作物へ販売強化</li> <li>✓ 有機農業用資材の新商品開発、海外展開強化</li> <li>✓ スマート農業商材の販売強化</li> </ul>
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>スイッチ型分解チェーンポットの開発</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 耐久性と分解性の両立に新たな技術的突破口をもたらす「クエン酸架橋原紙製チェーンポット」を開発</li> </ul> </li> </ul> <p>※チェーンポット®…当社が開発した数珠つなぎ状にはがれるペーパーポット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 育苗期間中は高い耐久性を維持し、移植前にアルカリ処理を行うことで、移植後は土壤中で分解が促進される、世界初のスイッチ型分解挙動を持つ</li> <li>• さらに、従来分解防止のために使用されていた薬品を天然物材料（クエン酸）へ変更することにより、有機農業への対応も目指す</li> </ul>



従来ポット（左）と新型ポット（右）のコマツナ収穫時の写真（※試作ポットでの評価）

## 中長期の取組状況③（成長事業）

### 食品事業

#### 方針

- ✓ 既存商品の販売強化／新商品開発／新市場開拓

#### 施策内容

- ✓ 新規酵母の製造、販売
- ✓ オリゴ糖などの健康素材の拡販
- ✓ 国内唯一の国産ドライイーストの市場開拓
- ✓ BtoC市場への販売強化
- ✓ 新たな機能を有する糖質の研究

#### 取組状況

- ✓ **新製品開発**
  - バゲットや食パンなど無糖・低糖生地のパンづくりに適した国産ドライイースト「旨パン職人」を開発
- ✓ **展示会への出店**
  - 食品開発展2025（2025年10月15日～17日）に出店し、当社製品「ベタイン（アミノ酸の一種）」や「オリゴ糖」等をPR



北海道ドライイースト  
旨パン職人



展示ブース

## 中長期の取組状況④（非財務戦略）

### 【健康経営優良法人2026（大規模法人部門）認定】

#### 健康経営宣言

- ・ 当社は、多くの「人」との信頼関係を大切に、地域社会への貢献と企業の持続的な発展を目指します。
- ・ 企業としての存在意義を発揮するためには、原動力となる従業員の健康が不可欠であると捉え、従業員一人ひとりが心身ともに健康で、いきいきと働ける環境づくりを推進してまいります。



# 中長期の取組状況⑤（事業戦略1）

## 【スズラン印リニューアル】

1962年より使用してきた食品ブランドロゴマークを2025年10月20日より変更



## 中長期の取組状況⑥（事業戦略2）

## 【商号変更】

- ・2026年10月1日付で、商号を「株式会社ニッテン」へ変更予定
- ・当社は、製糖事業で培った独自の知見や技術を活かし、食品、飼料、農業資材など幅広く事業を展開している
- ・第2次中期経営計画で掲げる「てん菜糖業」から「てん菜産業」への飛躍を示すものとして、商号変更を決定

**日本甜菜製糖株式会社**  
**Nippon Beet Sugar**  
**Manufacturing**  
**Co., Ltd.**



**株式会社ニッテン**  
**Nitten Co., Ltd.**

# 将来の企業価値向上を目指した取り組み

## 取組1 マイコプロテイン生産

砂糖の製造過程で発生する副産物を利用し、動物性タンパク質の代替とする研究

[取組内容] ✓ ノルウェーのオスロに本社を置く発酵科学のリーディングカンパニー「Norwegian Mycelium AS (NoMy)」に2025年4月30日出資。同社と連携し研究を実施

[期待効果] ✓ てん菜から新たな食品用途を開発・・・マイコプロテイン生産  
→ 植物から新たなタンパク源を製造し、将来予想される世界的タンパク質不足へ対応

## 取組2 カギケノリ飼料の開発

メタン抑制技術の開発

[取組内容] ✓ カギケノリ等藻類のメタン抑制効果を検証

[期待効果] ✓ 陸上養殖試験を開始して商品化を目指す

## 取組3 ナノセルロース事業化

てん菜糖蜜を新プラスチック素材(ナノセルロース等)とする研究

[取組内容] ✓ 北海道大学と共同で酢酸菌の生産するナノセルロースの効率的生産と物性に関する研究を実施中

[期待効果] ✓ てん菜の食品以外の新たな用途開発・・・植物由来の新素材ナノセルロース  
→ 植物由来プラスチックの普及による資源循環社会の実現

## 取組4 油脂生産

酵母の培養技術を応用、「微細藻類の従属栄養による高密度大量培養技術」確立を目指した研究

[取組内容] ✓ 従来のSAF研究で得た藻類培養の知見に基づき、新機能を有する油脂等の研究を継続

[期待効果] ✓ てん菜から新たな食品用途を開発・・・微細藻類の培養  
→ 人々の健康増進

# 3

## 資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応

---

## 企業価値向上に向けての現状認識

ROE・PBRが低水準。

2026年3月期では両指標とも向上しているものの、継続した取り組みが必要。

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
ROE	2.9%	1.9%	2.6%	3.7%	6.7%
PBR	0.32倍	0.33倍	0.37倍	0.39倍	0.64倍
PER	11.4倍	17.8倍	15.0倍	10.6倍	10.0倍
期末株価	1,611円	1,670円	2,078円	2,283円	4,100円

詳細につきましてはP29をご参照ください

# 将来の企業価値向上を目指した取り組み

## 資本コスト・株価を意識した経営

- ✓ ROE目標： 2028年3月期5%、中長期8%以上を目指す。

## 株主還元の強化

- ✓ 配当金方針を1株当たり80円以上から「DOE4.0%を目安」に変更。
- ✓ 機動的な自己株式取得を引き続き検討していく。  
2026年3月期自己株式取得実績 1,002百万円

## 政策保有株式の縮減

- ✓ 2028年3月期までに連結純資産に対する割合を20%までに縮減。
- ✓ 2026年3月期実績 6銘柄売却（うち4銘柄は一部売却）  
売却額80億円、売却益69億円

## IR活動の実施

- ✓ 個人投資家説明会を2025年9月に実施。
- ✓ 株主様向け見学を2025年10月に実施。継続予定。
- ✓ 今期、機関投資家説明会を開催。

詳細につきましてはP30～P33をご参照ください

## ✓ 株主優待の拡充

- 長期保有株主さまへの優待制度【新設】  
株主優待基準及び内容
  - ✓ 保有株式数 : 100株以上
  - ✓ 保有期間 : 継続保有期間5年以上
  - ✓ 内容 : 自社製品3,000円相当
  - ✓ 送付タイミング : 5年経過毎に送付

## ✓ IR活動（個人投資家向け説明会）

- 2025年9月  
福岡で開催された個人投資家向け説明会に、社長の石栗が登壇



## ✓ IR活動（工場見学会）

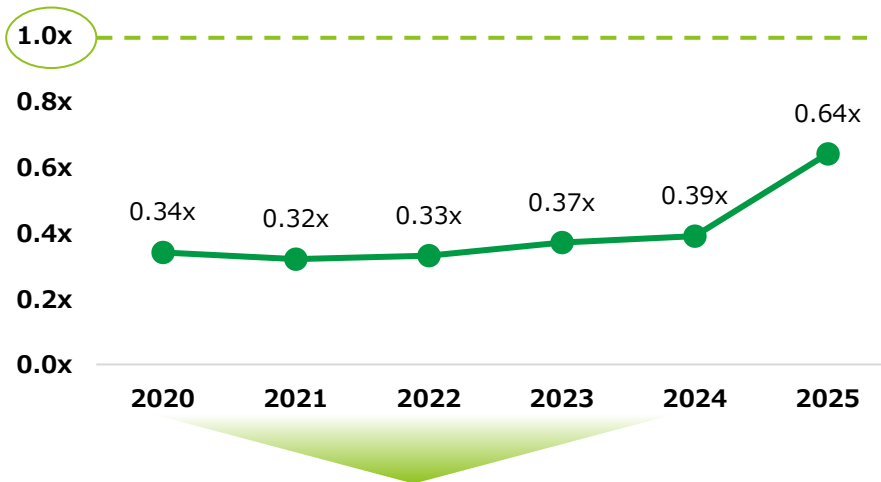
- 2025年10月  
当社工場やビート畑、ビート資料館をご覧いただく工場見学会を実施



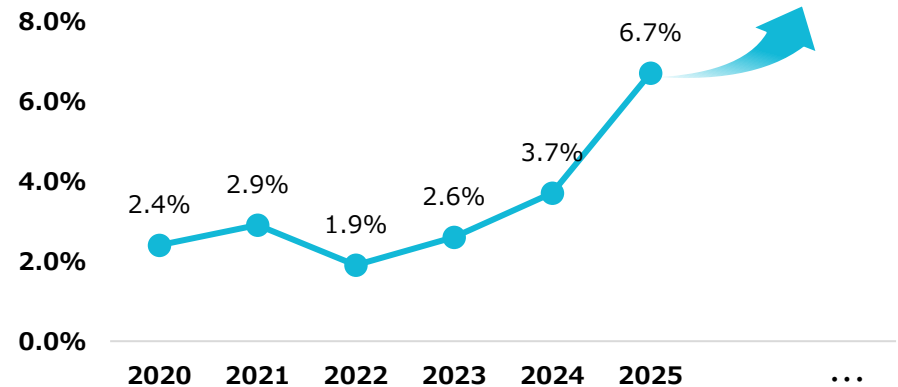
# 資本収益性に関する現状認識

PBR1倍を下回って推移しており、企業価値向上に向けた積極的な取り組みが必要な状況と認識

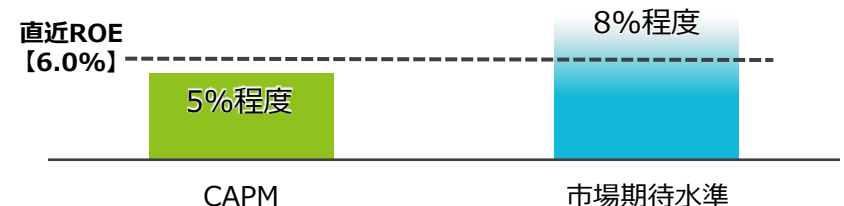
## PBRの推移



## ROEの推移



## 株主資本コストの認識



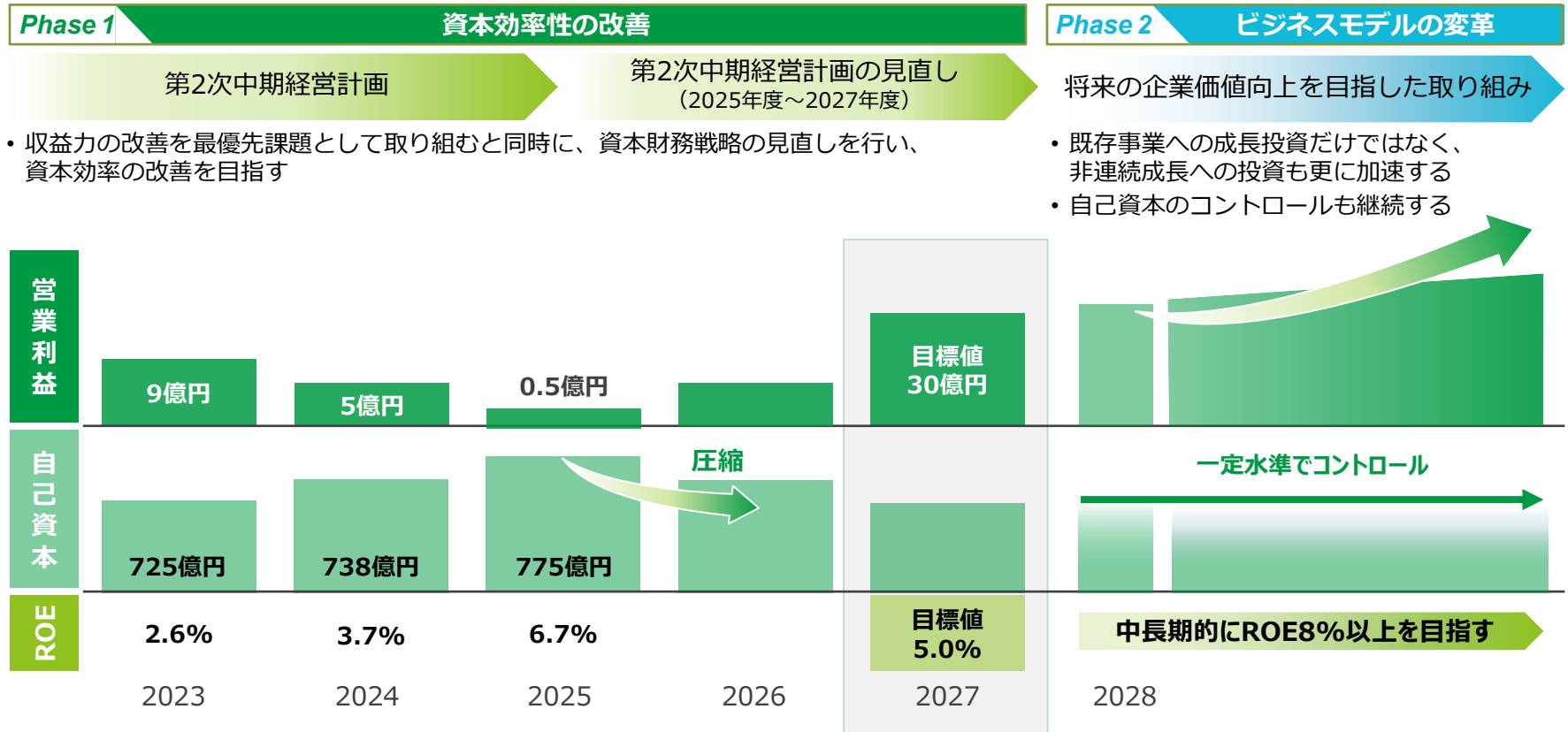
- ▶ ROEの向上、自己資本のコントロールが重要と認識
- ▶ 特に、投資家との面談を通じて株主資本コストの認識をアップデート。CAPMで認識する株主資本コスト5%程度を超えるROEを達成するだけでなく、中長期的に市場の期待水準を超える、更なるROEの向上が必要

- ▶ 足元の資本収益性はCAPMベースの株主資本コストを超過している一方、市場の期待リターンとの間には乖離があると認識

# 今後の企業価値向上に向けて

自己資本水準の見直しと、成長事業の拡大・基盤事業の収益構造改善を図り、  
中計最終年度におけるROE5%の達成ならびに中長期的なROE8%水準への向上を目指していく

## 当社のありたい姿：「てん菜糖業」から「てん菜産業」への飛躍



# 政策保有株式の縮減

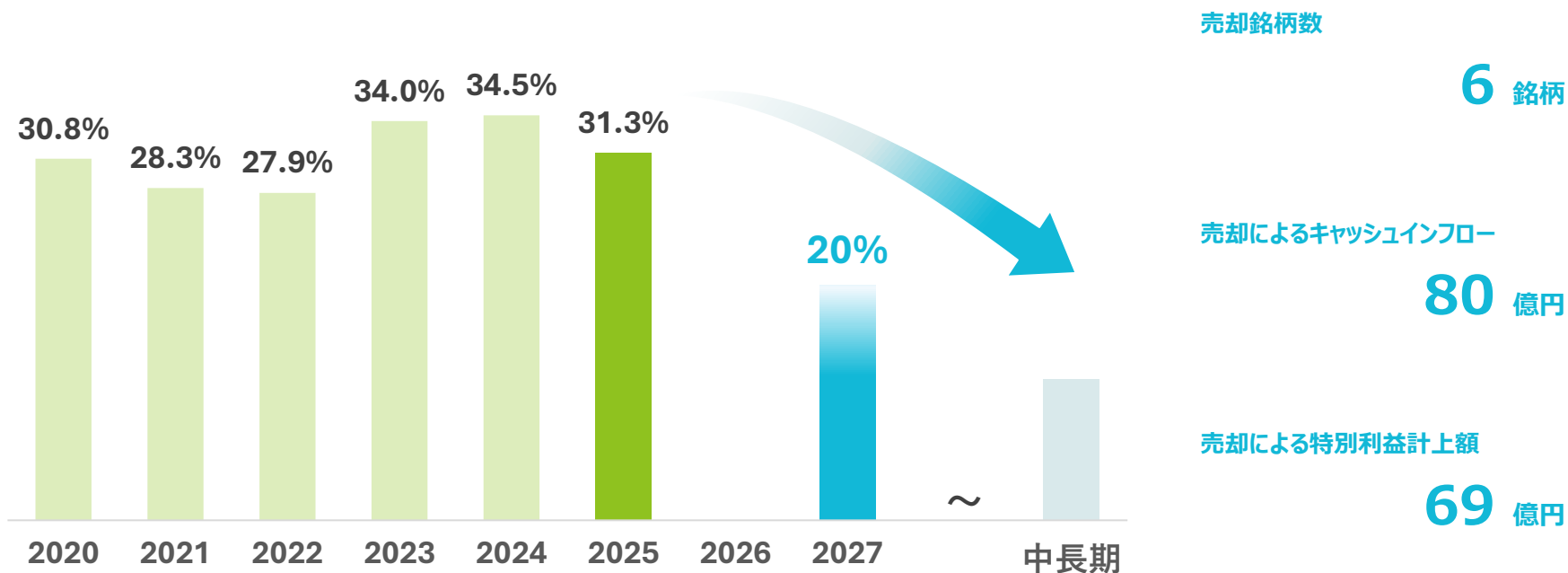
削減方針に沿って、2025年度は6銘柄、80億円の保有株式を売却  
 継続して、2027年度末までに対純資産比率20%を目標に縮減を進めていく

## 政策保有株式の縮減目標

政策保有株式の対純資産比率を2027年度までに20%まで縮減する  
 中長期的には更なる縮減を目指していく方針

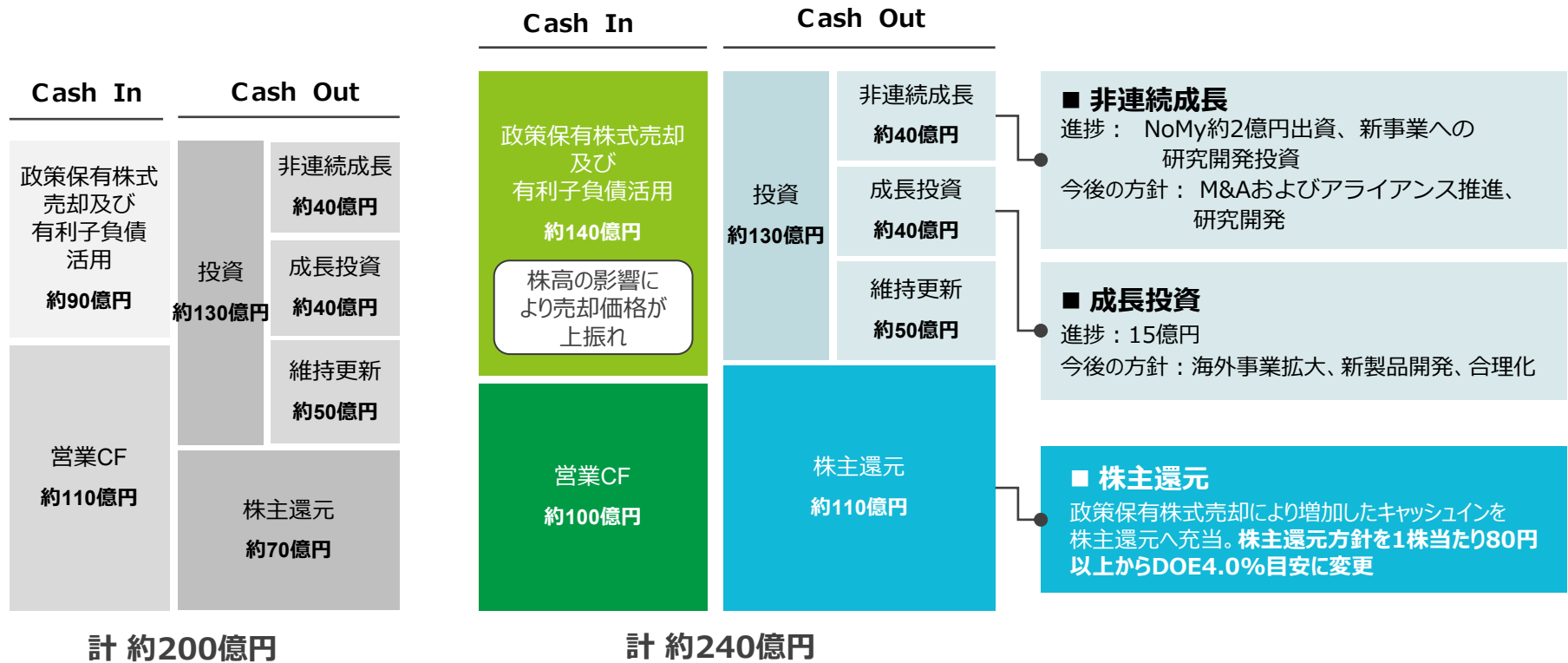
## 政策保有株式の対純資産対比率推移

## 2025年度実績



# キャッシュアロケーション

政策保有株式売却代金の上振れを踏まえ、キャッシュアロケーションを再設計  
効果的な投資を継続し、増加したキャッシュインは株主還元へ配分



# 株主還元方針

資本収益性を意識したバランスシートマネジメントを踏まえ、株主還元方針を更に強化  
機動的な自己株式取得は継続して実施していく方針

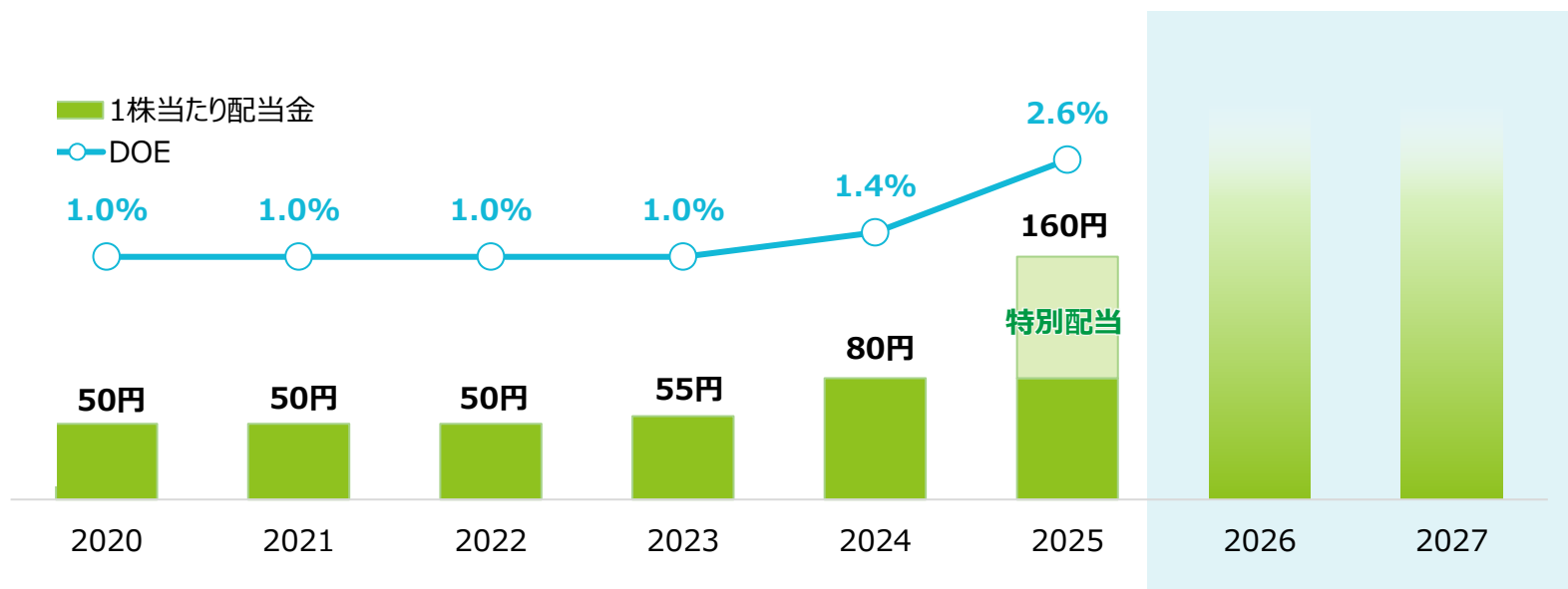
<b>株主還元方針</b>	資本効率の改善に向けた自己資本コントロールを目的とし、株主還元方針を強化 <b>DOE4.0%を目安</b>
---------------	---

## 配当実績

- ▶ 当社は2023年度に普通配当50円（特別配当除く）を実施し、2025年度以降は、株主還元方針を1株当たり80円以上に見直し

## 配当方針

<b>DOE4.0%を目安</b>
-------------------



# 4

## 参考資料 1 (事業紹介)

---

# 主な事業拠点



芽室製糖所



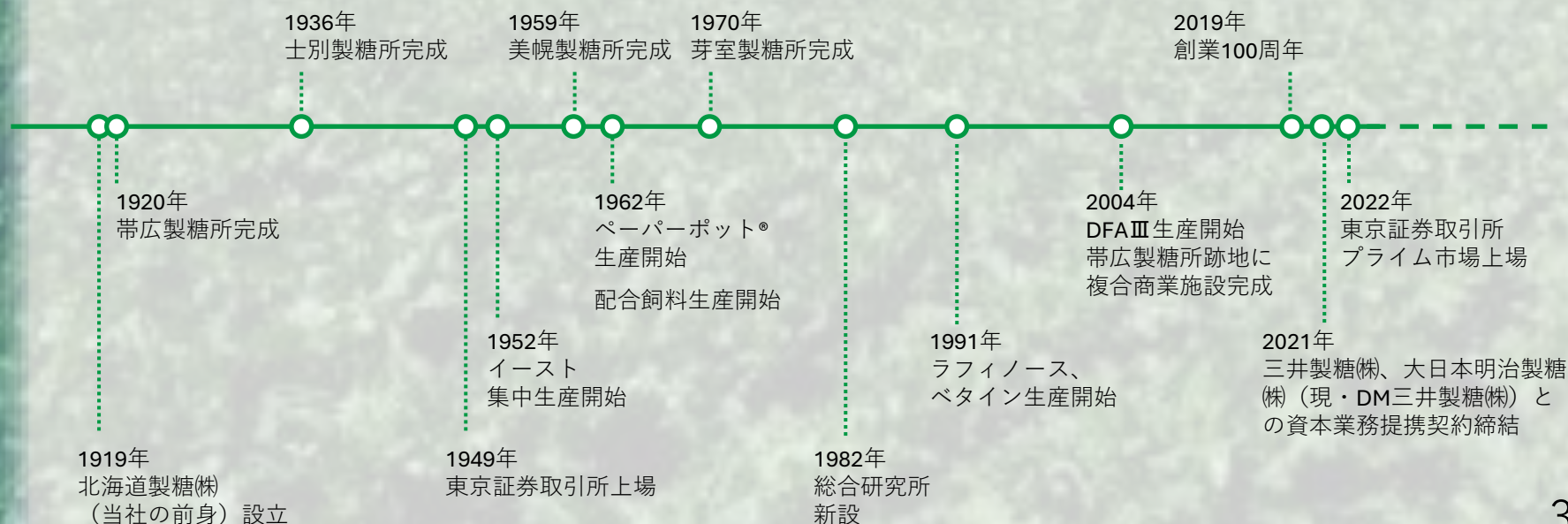
美幌製糖所



土別製糖所

# 沿革

- 国内での砂糖自給体制の確立と北海道の開拓推進を図るため、当社の前身である北海道製糖(株)が設立されました。
- 当社のでん菜糖業は、当初から苦難の連続でしたが、幾多の試練と困難を乗り越え、現在でん菜は北海道農業における基幹作物のひとつに成長しました。
- この間、当社は常にてん菜糖業のパイオニアとして、「開拓者精神を貫き 社会に貢献しよう」の社是のもと、北海道寒地農業の振興と国内甘味資源の確保に努めてまいりました。
- 今、社会は大きな変革期を迎えています。当社では、「でん菜糖業」から「でん菜産業」への飛躍を目指し、時代に即応した事業展開を図るとともに、常に時代の開拓者として社会に貢献することができるよう、不断の努力を続けてまいります。



# 連結子会社

会社名	所在地	設立	事業内容
十勝鉄道(株)	北海道 帯広市	1923年 (大正12年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車運送事業</li> <li>倉庫事業</li> <li>車両整備事業</li> <li>農畜産事業</li> </ul>
スズラン企業(株)	北海道 帯広市	1971年 (昭和46年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>石油事業 (石油類販売・ガソリンスタンド)</li> <li>スポーツ・レジャー事業 (ボウリング場)</li> <li>保険事業</li> </ul>
ニッテン商事(株)	千葉県 千葉市	1938年 (昭和13年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品卸売業 (砂糖・イースト・製パン製菓原材料)</li> </ul>
サークル機工(株)	北海道 滝川市	2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業用機械器具の製造販売事業</li> </ul>



# てん菜を起点に事業が派生



## 食品事業

砂糖製造・バイオ技術を活用



## 飼料事業

てん菜の繊維質（ビート  
パルプ）を牛の飼料として活用



## 砂糖事業

北海道の三製糖所で  
てん菜から砂糖を製造



てん菜



## 不動産事業

社有地等の保有不動産を  
有効活用



## その他事業

てん菜や製品の輸送等



## 農業資材事業

てん菜栽培の  
技術を活用

## 各事業紹介

### 砂糖事業 【ビート糖】 【精製糖】

- ・業務用、家庭用合わせて日本で消費される砂糖の10%強を供給
- ・家庭用の「スズラン印」は北海道、中国地方を中心に販売

### 食品事業 【イースト】 【オリゴ糖等食品素材】

- ・パン酵母（イースト）等を製造販売。ドライイーストを国内で製造しているのは当社だけ
- ・てん菜由来のオリゴ糖やベタイン（アミノ酸の一種）を製造販売

### 飼料事業 【配合飼料】 【ビートパルプ】

- ・乳牛用等の配合飼料を販売（イーストやオリゴ糖を配合した機能性ある商品が特長）

### 農業資材事業 【紙筒（育苗用資材）】 【農業用機械器具】

- ・当社が開発した紙製の農業用資材（紙筒～ペーパーポット®、チェーンポット®）は、てん菜のほか、そ菜・花き・林木用も販売。日本のネギの約3割に使われています

### 不動産事業 【旧製糖所跡地等を活用した不動産賃貸】

- ・北海道帯広市で複合商業施設を賃貸し、地域の皆様の暮らしに貢献

### その他の事業 【貨物輸送】 【石油類販売】

- ・子会社：十勝鉄道(株)で、原料となるてん菜や製品であるビート糖・配合飼料を輸送
- ・子会社：スズラン企業(株)で、石油製品販売事業等を行う

## 外部環境①（業界特有の制度）

### 糖価調整制度

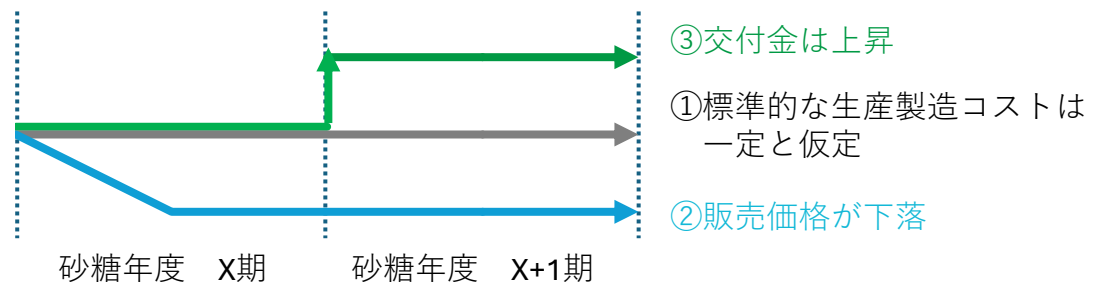
- ✓ 沖縄・鹿児島・北海道の甘味資源作物（さとうきび・てん菜）および、これを原料とする国内産糖事業、ならびに国内産糖と輸入粗糖を原料とする精製糖事業が成り立つよう価格調整を行う国の制度（農林水産省所管）
- ✓ 海外から輸入される原料糖と国内産の原料糖の間には、大幅な内外価格差が存在（海外の方が安い）
- ✓ 安価な輸入品から徴収した調整金を主たる財源として、国産品の生産者および製造事業者に交付金が交付される

※交付金の単価は、国産品の標準的な生産・製造コストと販売価格の差額により算出される（通常、コスト > 販売価格）

### 砂糖年度

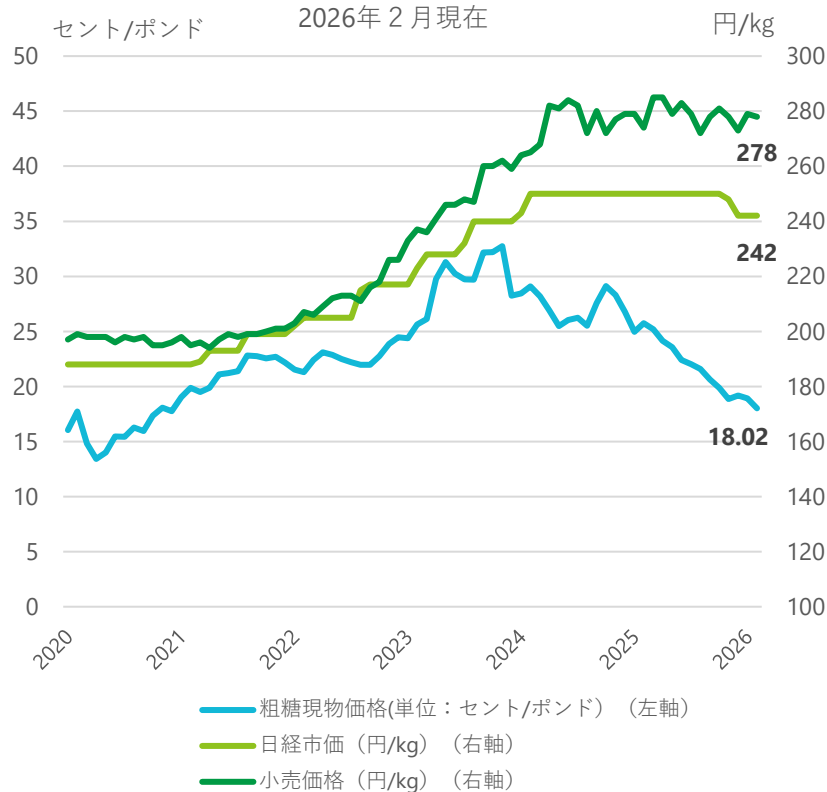
- ✓ 左記交付金が交付される期間は「砂糖年度」と呼ばれる年度単位で管理  
 ※砂糖年度…当該年の10月1日から翌年の9月30日まで
- ✓ 当社の砂糖の販売価格・販売量、製造コストは、てん菜の作柄等により変動する一方、交付金は前年度状況を踏まえ決定されるため、業績と交付金のタイミングが一致しない（下記イメージ図参照）

砂糖年度と交付金のイメージ

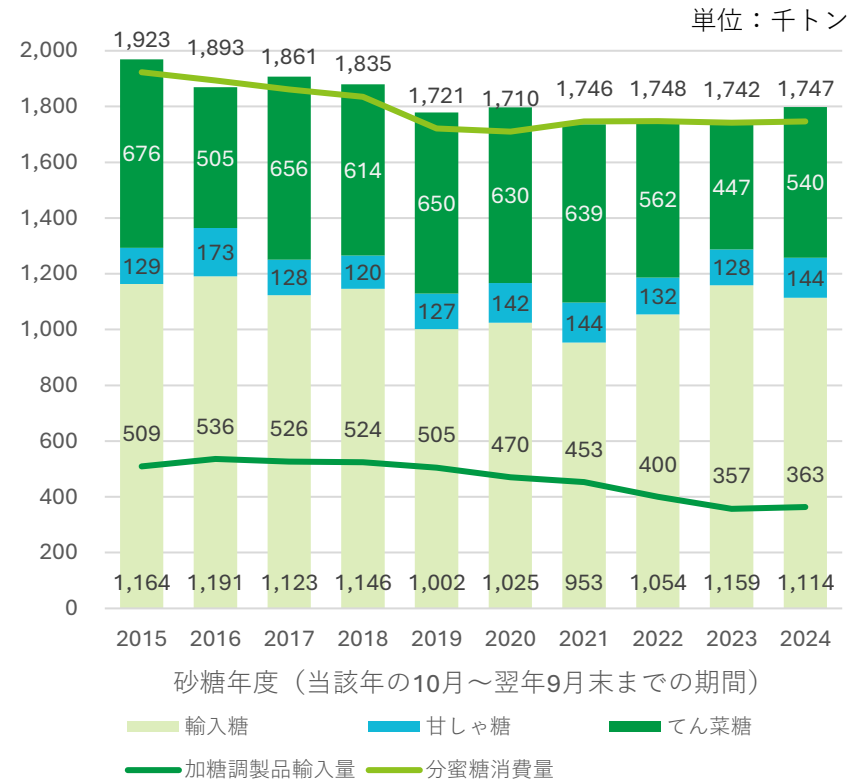


# 外部環境②（砂糖市場、国内砂糖消費量の変動）

砂糖市場の推移



国内砂糖消費量の推移



注1：粗糖現物価格は、東京商品取引所・大阪堂島商品取引所調査の粗糖現物価格（月平均価格）  
 注2：日經市価は、日本経済新聞の市中相場（東京、上白、30kg大袋入り）の価格（消費税抜き）で、各月の平均値  
 注3：小売価格は、総務省統計局調べ（上白、1kg入り）

出所：農林水産省「砂糖及び異性化糖の需給見通し」より当社作成

# 5

## 参考資料 2 (業績関連数値)

---

## 過去5年間の業績推移

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高	58,492	65,013	69,297	64,796	68,696
営業利益	2,229	1,506	910	535	52
経常利益	2,818	1,993	1,802	1,124	758
当期純利益	1,975	1,260	1,811	2,703	5,032
純資産額	67,918	68,134	72,535	73,829	77,517
総資産額	100,458	103,149	103,022	101,215	97,696
1株当たり 純資産額(単位:円)	5,037.45	5,102.17	5,647.57	5,928.75	6,412.65
1株当たり 当期純利益額(単位:円)	141.76	93.59	138.47	215.15	410.85
自己資本比率	67.6%	66.1%	70.4%	72.9%	79.3%
自己資本利益率 (ROE)	2.9%	1.9%	2.6%	3.7%	6.7%
売上高のうち砂糖事業 の占める割合	64.6%	65.9%	68.2%	66.2%	68.0%

## 売上高及び営業利益の四半期推移（事業別）

砂糖事業・飼料事業・農業資材事業では、収益に季節性あり  
 食品事業と不動産事業は、年間を通じて比較的安定的な利益を創出

単位：百万円

	2025年3月期				2026年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	14,916	14,265	17,435	18,178	17,168	15,809	18,273	17,445
砂糖事業	10,372	10,031	11,325	11,168	12,664	11,509	12,294	10,226
食品事業	694	603	728	674	726	650	748	675
飼料事業	2,616	2,613	4,056	3,571	2,550	2,537	4,080	3,576
農業資材事業	622	465	726	2,113	703	509	528	2,246
不動産事業	357	307	289	280	263	298	301	303
その他の事業	253	244	308	370	259	303	320	417
営業利益	253	199	▲ 1,184	1,313	▲ 96	▲ 112	▲ 841	1,188
砂糖事業	240	507	▲ 2,499	153	▲ 299	▲ 10	▲ 2,278	30
食品事業	53	18	94	55	67	25	34	43
飼料事業	▲ 147	▲ 35	775	629	▲ 2	▲ 100	832	634
農業資材事業	▲ 45	▲ 391	▲ 22	408	67	▲ 113	▲ 31	348
不動産事業	220	153	126	101	136	124	169	163
その他の事業	▲ 67	▲ 52	341	▲ 35	▲ 66	▲ 37	431	▲ 32

要因

- ・ **砂糖事業** : ビート糖の製造を10月から開始。約1年間かけて販売する。第3Qの棚卸資産評価の影響が大きく利益が大幅に変動。
- ・ **飼料事業** : 第3Qのビート糖製造に伴い、ビートパルプの販売が増加するため、第3Q及び第4Qに売上高が増加。
- ・ **農業資材事業** : てん菜等の作付け開始時期となる第4Qに販売増。

# 連結貸借対照表、連結キャッシュ・フロー計算書

## 連結貸借対照表

単位：百万円

	2025年 3月期末	2026年 3月期末	増減
現金及び預金	3,164	2,555	▲ 609
売上債権	8,808	8,386	▲ 422
有価証券	5,200	5,500	300
棚卸資産	33,024	30,221	▲ 2,803
その他	1,121	1,002	▲ 118
流動資産	51,318	47,665	▲ 3,653
建物および構築物	9,330	9,569	238
土地	7,253	7,199	▲ 54
その他	3,658	3,775	117
有形固定資産	20,242	20,544	301
無形固定資産	1,557	1,684	127
投資有価証券	25,456	24,269	▲ 1,186
その他	2,639	3,532	892
投資その他の資産	28,096	27,802	▲ 293
資産合計	101,215	97,696	▲ 3,518
買掛金	1,333	1,337	3
短期借入金	9,037	1,511	▲ 7,526
その他	6,064	8,502	2,437
流動負債合計	16,435	11,350	▲ 5,085
固定負債	10,949	8,828	▲ 2,120
負債合計	27,385	20,178	▲ 7,206
純資産合計	73,829	77,517	3,688
自己資本比率	72.9%	79.3%	6.4pt
投資有価証券/純資産	34.5%	31.3%	▲ 3.2pt

## 連結キャッシュ・フローの推移

単位：百万円

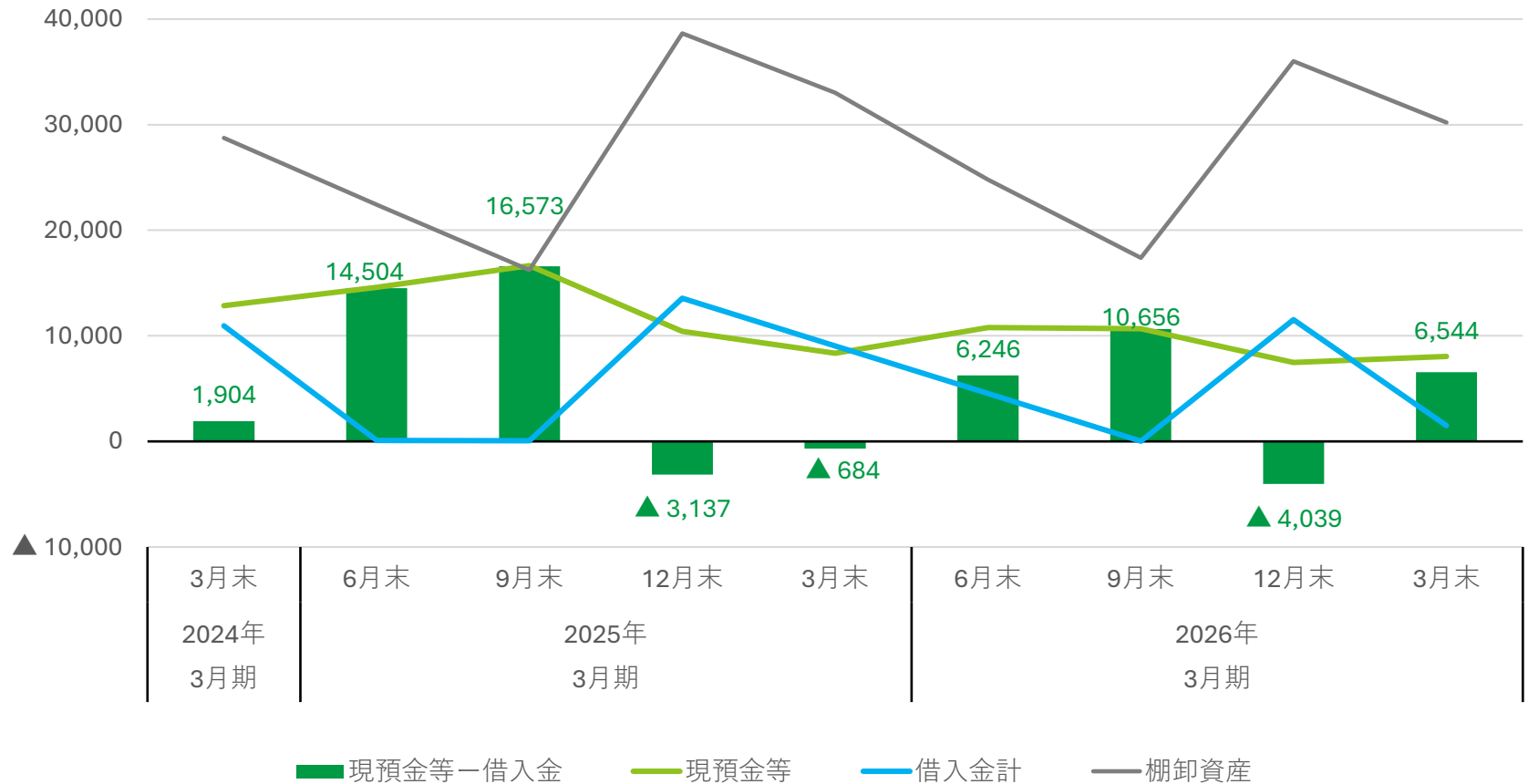
	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	
営業CF	2,577	▲ 1,825	13,044	▲ 3,090	4,271	
投資CF	489	▲ 1,704	▲ 1,315	2,206	1,449	
フリーCF	3,067	▲ 3,529	11,729	▲ 884	5,721	
財務CF	1,381	2,969	▲ 9,465	▲ 3,605	▲ 9,530	
●主なCF項目の内訳						
減価償却費	2,409	2,382	2,624	2,514	2,312	
減損損失	473	243	88	5,679	527	
・主な投資活動の支出						
設備投資	▲ 2,100	▲ 2,678	▲ 4,129	▲ 5,872	▲ 3,015	
投資有価証券	▲ 4	▲ 5	▲ 5	▲ 6	▲ 209	
・主な投資活動の売却による収入						
設備の売却	32	6	14	8,748	150	
投資有価証券	2,045	224	945	898	8,070	
・配当金、自己株式取得の推移						
配当金支払	▲ 698	▲ 672	▲ 665	▲ 703	▲ 991	
自己株式取得	▲ 910	▲ 239	▲ 1,001	▲ 1,001	▲ 1,002	
(参考)：1株当たりの配当金の推移						
普通配当	50	50	50	50	80	
特別配当			5	30	80	
配当金合計	50	50	55	80	160	
●2026年3月期 政策保有株式の状況						
	単位：百万円					
	2025年3月期	2026年3月期				
	残高	期中売却	株価変動による増減	出資他	その他	残高
	25,456	▲ 6,739	5,316	209	27	24,269

# 資金フロー

## 【原料仕入、製造、販売の年間のサイクルの中で現預金も大きく変動】

てん菜を10月より一気に仕入、製造を開始し、翌年9月ごろにかけて販売をしていく。  
第3Qに在庫とともに支払が増加するため、借入をする必要がある。

単位：百万円



本資料は、作成時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして実際の業績等はこれらと異なる可能性があります。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害につきましても当社は一切責任を負わないことをご承知おきください。

本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

**【お問い合わせ先】**

日本甜菜製糖株式会社

財務企画室財務課

ir@nitten.co.jp

畑から、食卓へ。

てん菜から広がる可能性を見だし、

人と環境にやさしいものづくりで、

北海道、そして日本の未来に貢献します。

**日本甜菜製糖**

当社パーパス